

小笠原村立母島中学校令和4年度授業改善推進プラン

小笠原村立母島中学校
校長 井口 寛隆

(1) 令和3年度の取り組み状況に関する総括

① 令和4年度村学力調査の結果より

各教科において以下の課題が見られた。

国語

1年生国語を見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。

問題の内容は、「漢字を書く」と「文章を書く」に課題があるといえる。

領域「書くこと」に課題があるといえる。

2年生国語を見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。

問題の内容は、「文法・語句に関する事項」に課題があるといえる。

3年生国語を見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。

問題の内容は、「説明的な文章の内容を読み取る」と「話の内容を聞き取る」に課題があるといえる。

領域「話すこと・聞くこと」に課題があるといえる。

数学

1年生数学を見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。

問題の内容は、「百分率」と「平面図形」に課題があるといえる。

2年生数学を見ると、全国平均を上回り、たいへん良好な状況である。ただ、活用に課題があるといえる。

問題の内容は、「データの分布の傾向」に課題があるといえる。

領域「データの活用」、観点「思考・判断・表現」に課題があるといえる。

3年生数学を見ると、全国平均を上回り、たいへん良好な状況である。

問題の内容は、「証明」に課題があるといえる。

社会

1年生社会を見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。

問題の内容は、「世界の中の日本」に課題があるといえる。

領域「世界の中の日本の役割」に課題があるといえる。

2年生社会を見ると、全国平均を下回り、課題があるといえる。ただ、活用はたいへん良好な状況である。

問題の内容は、「縄文時代～古墳時代」と「飛鳥時代～平安時代」に課題があるといえる。

領域「歴史」、観点「知識・技能」に課題があるといえる。

3年生社会を見ると、全国平均を上回り、たいへん良好な状況である。

問題の内容は、「地域調査の手法」に課題があるといえそうである。

理科

1年生理科を見ると、全国平均を上回り、たいへん良好な状況である。

問題の内容は、「月と太陽」と「大地のつくりと変化」に課題があるといえる。

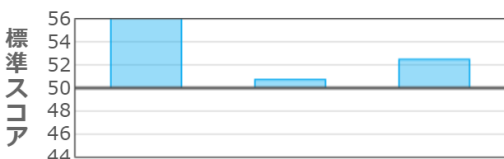
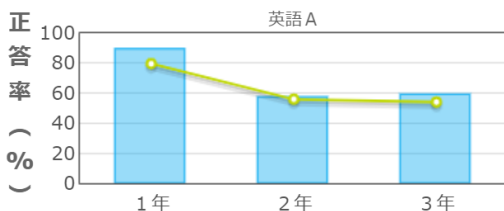
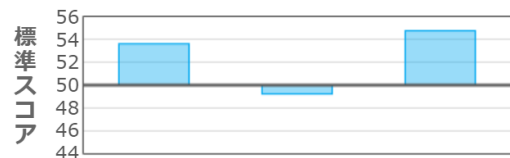
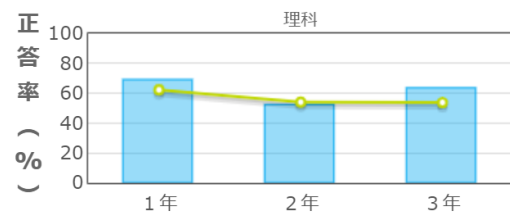
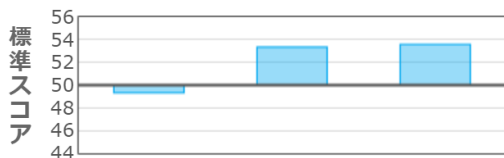
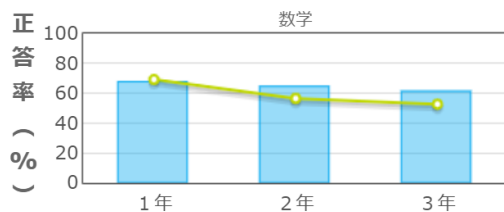
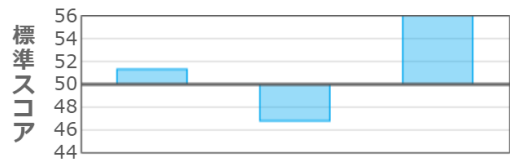
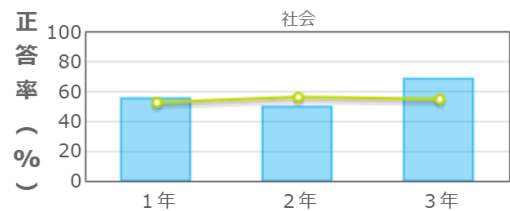
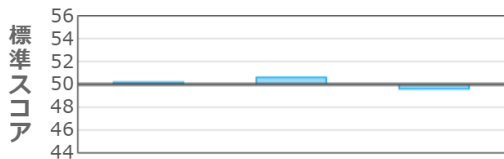
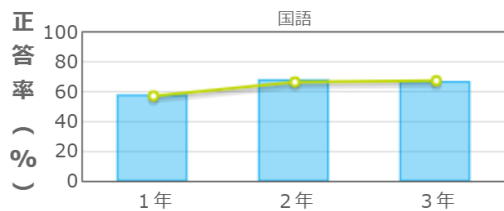
2年生理科を見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。ただ、活用に課題があるといえる。

問題の内容は、「地層」と「水溶液の性質」に課題があるといえる。
 領域「生命」、観点「主体的に学習に取り組む態度」に課題があるといえる。
 3年生理科を見ると、全国平均を上回り、たいへん良好な状況である。

英語

1年生英語Aを見ると、全国平均を上回り、たいへん良好な状況である。
 2年生英語Aを見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。ただ、活用に課題があるといえる。
 問題の内容は、「さまざまな英文の読み取り」と「情報に基づいて書く英作文」に課題があるといえる。
 観点「思考・判断・表現」に課題があるといえる。
 3年生英語Aを見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。
 問題の内容は、「長文の読み取り」と「さまざまな英文の読み取り」に課題があるといえる。

■校内 ■全国



以上の各教科の概観から、どの教科においても以下の3点が本校生徒の課題であると考えられる。

- ・題意を読み取る力
- ・自分の考えや思いを書いて表す力
- ・各教科での基礎的・基本的な知識の確実な定着

② 令和4年度村学力調査における生活行動調査の結果より

「朝食をきちんと食べている」「夕食をきちんと食べている」「朝は、時刻を決めて起きている」「夜は、時刻を決めて寝ている」といった、基本的な生活習慣を守ることはおおむねできている。

一方で、地域的環境による学習習慣の定着の難しさが、昨年度に引き続き見られた。「新聞記事を読んでいる」「勉強に図書館を利用している」「参考書や問題集などを使って、勉強している」「通信添削を利用して、勉強している」「家庭教師に来てもらって、勉強している」「学習塾に行き、勉強している」という質問項目において、どの学年でも否定的な回答が多く見られた。

(2) 授業改善のための取組について

小笠原村教育委員会教育目標実現のための授業改善に関する取組の重点

○ 授業UDの徹底

➔ 「わかる」から「できる」を**体感する授業**の推進

① 課題の要因

(1) で挙げた課題の要因としては、以下の2点が考えられる。

- ・島しょという地域環境による学習習慣の定着の難しさ
- ・読書習慣の希薄さ

学習習慣の定着の難しさについては、家庭学習よりも地域の活動（運動クラブなど）に時間を費やしている背景がある。地域の活動に真剣に取り組みながらも計画的に学習に取り組めるよう指導・支援していくことが必要である。今後、さらに学校からの支援・指導を充実させ、家庭での学習習慣が定着するだけでなく質の高い自主学習が行えるような手だてを講じる必要がある。

また、読書習慣についても、生徒が落ち着いて読書に取り組める環境づくりや様々な本に触れられる機会の提供を、学校が主導して行っていくことが重要であると考えられる。

② 学校全体で取り組む事項

- ・学習指導の充実を図るための方策

【授業UD】

全ての生徒にとって「わかる」から「できる」授業を実施するために、ICTを積極的に活用し、視覚的に分かりやすい授業を構成するようする。また、生徒の身近な興味や関心に訴えかけるような学習課題を設定し、生徒が意欲的に学習に取り組めるようにするとともに、それらを家庭学習や家庭での話題に還元することができるようにする。

教室を整理整頓し、前黒板の左右にある掲示板は、全学年統一した内容のものだけを決められた位置に配置した。これにより授業中に不必要な情報が生徒の視界に入らないようになり、生徒の集中力を高めている。

学校生活の見通しをもたせるために全学年で1日の予定を後ろ黒板に掲示し、かつ連絡ノートに翌日分を記入させている。

指示の出し方を具体的にし、どこまで伝わっているか確認することを心掛けている。

視覚的な手掛かりを示すため、板書には「学習目標」「めあて」など大切なところを示すマークを教科の実態に合わせて用いている。

かりやすいワークシートを用意するために、母島中学校はA4またはA3の用紙に統一して使用している。

【家庭学習の内容】

生徒が意欲的に取り組むことができる家庭学習の内容を設定する。また、国語科における新出漢字、算数科における計算の技能などが確実に定着するよう、基礎的・基本的な内容の家庭学習を繰り返し行えるようにする。また家庭学習ノート（自主学習ノート）の取り組みを行っている。朝学活の際に担任が回収し、自主学習の内容をチェックしてアドバイスしている。提出回数などは学年の現状に合わせ、生徒の継続する意欲を高めるよう提示している。

【朝読書の時間の設定】

ベーシックタイムや朝会・集会の時間以外の朝の時間は、朝読書を実施している。各学級で、生徒一人一人が落ち着いて読書をする時間を確保する。朝読書を通して家庭での読書時間につなげ、ひいては一人で学習に取り組む時間の確保につなげていく。

【ベーシックタイムの実施】

8:00～8:10の10分間、主に水曜日と金曜日に実施している。国語・社会・数学・理科・英語の5教科を1年間に順番に割り当て、基礎基本の定着を図っている。

・「指導と評価の一体化」の実現を図るための方策

【振り返りの指導】

毎回の授業で、学習内容を振り返る時間を設定する。また、単元テストの振り返り活動を通して、各単元の学習内容を着実に定着できるようにする。振り返りから学習の理解度などの生徒の実態を把握し、次の指導へと生かしていく。

・義務教育9年間の学びの連続性を意識した小中一貫教育推進のための方策

【校内研究の取組み】

母島小中学校では、小中合同で校内研究に取り組んでいる。今年度も昨年度、一昨年度に引き続き「基礎学力向上のための、少人数指導の工夫」を研究主題に設定している。少人数である母島の特色を生かした指導を行い、課題を解決するための基礎的・基本的な知識及び技能を伸ばし、学力向上につなげていく。

【ホワイトボードやタイマーの活用】

各教室にホワイトボードを生徒数分用意している。またタイマーを各教室や特別教室に1

台用意している。ホワイトボードを使用し各授業で発表活動を多くすることにより、説明する力や表現する力の向上を目指している。また、タイマーで時間を示した指導を行うことで、生徒が見通しをもって活動に取り組めるようにする。

【GIGA スクール構想，ICT 端末の活用について】

母島小学校，中学校で同じタブレット端末を使用している。以下のことを実践している。

- ・各教科でミライシードのドリルを活用した演習を行っている。
- ・各教科で上記に記載したホワイトボード以外にタブレット端末のジャムボードを利用した意見交換を場面に応じて行っている。
- ・技術や美術，音楽ではタブレットを使用して作品などを記録している。
- ・数学科では GRAPES を使用し，各学年の関数の単元ではグラフ作成を行っている。
- ・生徒会選挙のポスターを生徒がタブレットを利用し作成している。
- ・教員同士でジャムボードを利用して研究授業の協議会を行った。生徒に使うように指示するだけでなく，教員も活用していくことにより，タブレット端末の扱い方の理解を高めている。
- ・オンラインでの出前授業を多く実施している。
(オンライン職場訪問，美術館鑑賞，社会科による国際理解教育，ふれあい天文学)